急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

（ITより 歩いてエ）

雑報 縄文

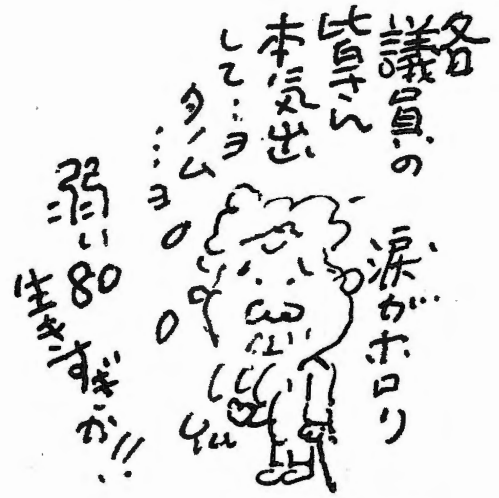
いろんな考えがあるから 面白い
いろんな人がいるから 楽しい

No. 515
2019年5月 夕刊

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉市緑区誉田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

	ページ
● あの山の向こうに ⑺⑺	2
● 『気仙大工……』への感想に励まされ	4
● 動物を守ろうとする食品とは	7
● 「民主主義の危機?」を拝読して	8
● 「日本列島の自然と日本人」ほか	10
● お便りから	13
● 山仕事（2月、「大日さん」）	20
● 〃 （3月、「倒木整理」）	22
● 只見線雪見の旅	23
● 三浦ハイク「鷹取山」	25
● け・い・じ・ば・ん	26



もう少し待って。

月　日現在の
会員数　　名

この見本誌をみて新たに
「読んでみようか」という方は、
20　年3月までの　ケ月×~~200~~250円＝　　円を
郵便局で 00100-2-20630
「雑報友の会」
へ振り込んで下さい。

題　　字：故 佐村隆英和尚（元 千葉県長柄町本光寺住職）
カット：泉ゆきをさん（にっぽん箱絵の会会長）

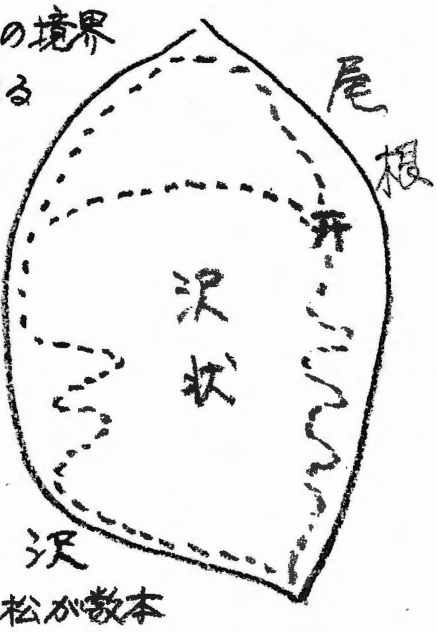
印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、

Greetings: Spring

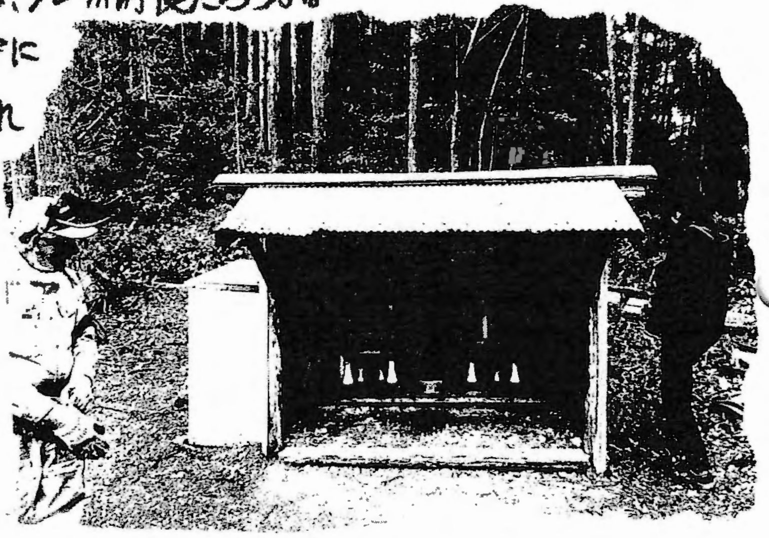
山仕事（2月、大平「大日さん」）

2月23日（土）。西浦田楽が終り、熊谷修さんに水窪のバス停まで送って頂く。遠鉄バスで旧天竜市に出、正士さんの車に迎えられる。バス停そばの遠鉄ストアで買物を済ませ、深澤明男・富士代さんの「豊岡農場」へ。「はるみ」ミカンを沢山頂く。これは、清見オレンジとポンカンの交配種でとてもおいしいのだ。いつもご馳走さま。



昼食後、久米さん竹中さんも一緒に6人で「大日さん」の境界と倒木の状況を見に行く。ここは正士さんの7〜8カ所ある持山の一つで、ぼくも初めてのところだ。全体の地形は、両手を合わせて水を受けるさまを想像してほしい。中央が沢状に凹み、両側は尾根になっている。正士さんも長い間来ていないそうだが、なんとか踏み跡は辿れる。基点から時計まわりに登ってゆく。非常に崩れやすい地質で、急傾斜と相まってきつい。

はじめ、境界の小さな沢に沿って登る。水道が普及する以前、この下の住宅が沢水を採水したあとのパイプが残っている。植生はスギが主体で、上部には大きな洋松が数本立っている。正士さんのご両親が植林したそうだ。そのうちのスギが、昨年の台風24号で数十本やられている。上の方、开マークの近くには、枯れ竹が大量に折り重なっている。基部から最上部までの標高さは、70m前後だろうか。



時計まわりに下りにかかると、途中に小さな祠がある。「大日さん」と呼ばれているが、祭神は定かでない。その祠まで、参詣のため歩きやすいよう、下から階段状に道がつけられている。

後刻、お母さんが話すところによると、結婚してまもなく植えたそうだ。正士さんは今70歳。約70年たつわけだ。正士さんはその間、一度歩いただけという。ほかにも同様の持山がいくつかあるようだ。今のうちに子息啓史さんを伴って歩いておく必要があろう。正士さんはまだよい方で、全国には全く持山のことを知らない山主がふえているようだ。

山歩きから戻り、茶園に油粕をまく。

夕食は、久米・山崎両シェフによる、おでん（紀文主体）、鶏肉のネギ塩炒め、刺し身（竹中さん提供の、タイ、カンパチ、ホタテに地元商店のアジ・マグロ）、冷奴、ハムとブロッコリのサラダ、天ぷら（フキノトウ、春菊）、小ラッキョウのキムチ（久米さん手製）、菜の花のからし

和え、ハバリ(原田さん提供)に正士さんの手打ちそば、かえしとだしは、久米さん。

写真(カメラ 正士さん)左端久米さんが掲げるのは、今年の若潮マラソン(1/27)での英ちゃんの記録証。70歳を過ぎて5時間11分10秒は立派だ。

食後、英ちゃんのケーナで合唱。

今回、康江、佐藤、若林さんが不参加のため、久しぶりにイロリ端で寝る。

2月24日(日)、くもり。朝食後、正士、小木さん(財産区の議員中、唯一!正士さんの理解者)と三人で祠の上下の境界を確認しながら歩く。その後、松田、伊藤(恵)、竹中さんと7名で倒木整理にかかる。

昼食は原田シェフでカキ(牡蠣)丼、おでん、トマト(恵一郎さん提供)、カリフラワーのサラダ、イチゴ(松田さん提供)、昨夜のネギ塩炒め。

午後も倒木の整理。急斜面、滑りやすい地質、入り組んだ倒木で難儀する。倒木を切断中、切り口に喰われて抜けなくなったチェンソーを助けようと正士さんがそのわきを切断したとたん、倒木が思いがけずその足の上に落ちてきた。本人は勿論、見ていた誰もが「アッ、やられた」と思った。しかし、幸い倒木は正士さんのすねをこするように落ち、無事だった。

ぼくも、一人で等高線沿いに祠の方に通じる踏み跡をふさぐ倒木を整理中、切断した倒木がはねて腹部を強打された。一瞬、「内臓破裂」「肋骨骨折」という言葉が浮かんだ。しかし、近頃とみにせり出した腹部がエアバッグの役目をしてくれて、大事に至らなかった。何本も折り重なり、複数の倒木の関わりがどうなっているか定かでなく、気をつけねば。膝を痛めている松田さん、山ちゃんは、苦労したようだ。途中、久米さんが焼芋(芋は、ぼく)を持って登ってきてくれた。

夕食は、ちぎりミートボールと白菜のスープ、新タマネギとサバの水煮缶、みそ田楽(大根、こんにゃく)、水炊き(サケ、鶏肉、カキ、白菜、エノキタケ)、フキみそ、トマト(恵一郎さん)、トラッキョウキムチ(久米さん)、づけ(マグロ、カンパチ、ホタテ)、イチゴ(松田さん)、豆もやしにおそば。

松田さんは話題が豊富だ。お年よりの施設訪問のためという。今夜は「大和ことば」をテーマに、皆の頭を悩ませ、笑わせてくれる。

2月25日(月)、晴。深夜、雨音が激しかったと山ちゃんに言われたが、気づかず。
正士さんが遠縁の葬儀に行った後、物置の棚の補修、庭のヤマモモ2本伐採。幹、大枝、小枝に分けて刻む。佐藤さんの復帰第1号に、燃してもらおう。
昼食は、久米さんと山ちゃんで、カレーライス、トマトとレタスのサラダ、イチゴ。
正士さんと久米さんに送られ、天浜線の車中から見えなくなるまで手を振る。

山仕事(3月、「倒木整理②」)

3月11日(月)、晴。伊藤(康)さん久しぶりの参加で、原田、山崎さんと4人。
高齢で放置された坂上さんの柿園の下刈り。「おっとび(衣類に種子が付着する植物を、当地ではそう呼ぶ)」の密生に刈払い機で突入。
夕食は、久米・康江シェフで、刺し身(アカエビ、マグロ)、菜花のお浸し(久米さん栽培)、ハスと人参のきんぴら)、大根とゲソの煮物、豚肉・エノキダケ・玉ネギのてんめん醤炒め、原木シイタケの炭火焼き、白菜キムチに正士さんの手打ちソバと久米さんのかえし・だし。久しぶりに深澤明男さんが「はるみ」の最終便持参で見え、歓談。

←前　後→

3月12日(火)、晴。若林、伊藤(恵)さんも参加し、前回に続く倒木整理。
昼食は、久米さん心尽くしのちらしずしに、アボカドのサラダ、ホウレンソウのお浸しにすまし汁。テーブルには水仙とクリスマスローズが。全員が着席したところですし桶のおおいがとられると、**ジャーン**、明日古希を迎える正士さんを祝うサプライズだった。ぼくの誕生日はネズミ相手だったが。

午後も倒木整理。難しい場面もあったが、協力して無事。
伊藤(恵)さんは会議のため帰宅。夕食は、豚肉のコチュジャン炒め、白菜のひき肉あんかけ、春雨サラダ、菜花のからし和え、大根とツナ缶の炒め煮、ザーサイにおそば。食後、英ちゃんのケーナで演奏会。

3月13日(水)。朝食時、武ちゃん(掛川市横須賀のお祭り大好き人間/鈴木武史さん)の容態が話題に。早く元気になってほしい。午前、池谷さんと草刈り。倒れたサクラを整理。せめてひと花咲かせてからと思ったが、後の祭り。昼、シーフードカレー。帰り際、久米さんから佐藤さんへのメッセージを託される。富士山がよく見えた。

2/23～2/25 山仕事（2 月大平「大日山」）

大日山の社

2/23 夕食
（交流会）
久米さんの掲げるのは原田さんの記録証

2/24 当日朝出発前
オールスタッフ

2/24 倒木の整理

3/11～3/13 山仕事（3 月「倒木処理②」）

3/11 坂上さん柿園の状況
作業前

3/11 坂上さん柿園
作業後
奇麗になりました。

3/12 倒木の整理
奇麗になりました。

古希のお祝いの素晴らしいお料理。
びっくりしました。嬉しかったです。